

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	尼崎市立たじかの園		
○保護者評価実施期間	令和7年12月8日		～ 令和8年1月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	4
○従業者評価実施期間	令和7年12月8日		～ 令和8年1月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7 (回答者数)	5
○訪問先施設評価実施期間	令和7年12月8日		～ 令和8年1月13日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月19日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達支援センターとして、保育士、公認心理師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などの各専門職員が専門性を活かし、必要により連携をしながら支援を行っている。	各専門職の専門性に関わる研修だけではなく、今年度は職員研修としてチーム連携を大切に多職種でのケース検討会を実施した。	引き続き研修の機会を持ち、支援の質の向上を図る。
2	児童発達支援センターとして、関係機関との連携を大切に各種協議体や会議に参加し、保育所等訪問支援を含む当園の事業について周知を行っている。	今年度は各種協議体や会議の中で、保育所等訪問支援を含む当園の取り組みについて周知し、意見をj得る機会を複数回持つことができた。	引き続き関係機関との連携を強めていく。
3	保護者や訪問先と支援の方向性を合わせることを大切にしている。	保護者とは実際場面の共有が難しいため、訪問先に了承を得たうえで、写真等も活用し、保護者が支援の様子を共有しやすいよう工夫している。訪問先とはアセスメントシートや懇談で訪問先の方針や実情を知るようにしている。	引き続き丁寧に保護者に支援の様子を共有し、訪問先と十分に連携し支援する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	待機期間があるなど、タイムリーな支援が行いにくい。	産休職員や支援員の兼務の状況など、体制上の調整の困難さや、計画相談との支援開始のタイミングのずれがあり、昨年度よりは待機期間は減少しているものの、解消には至らなかった。	引き続き体制を整え、相談支援との連携を密に取りながら、待機人数を減らしていく。
2	保育所等訪問支援利用者を対象とした保護者同士の交流や保護者向けの研修の検討が不十分である。	当園の児童発達支援においては、保護者勉強会などを実施しているが、保育所等訪問支援のみの利用者を対象にした研修は利用者の状況も大きく違うため実施できていない。	利用者の二ードを確認し、保護者向けの研修を検討する。
3	保護者へのInstagram等を活用した発信方法について検討が必要。	ホームページに加えて、今年度よりInstagramを開設したが、保育所訪問についての発信はまだできていない。	Instagram等を活用した情報発信の方法について検討していく。